

IFRS news

IASBのコメント:「静止期間が必要」

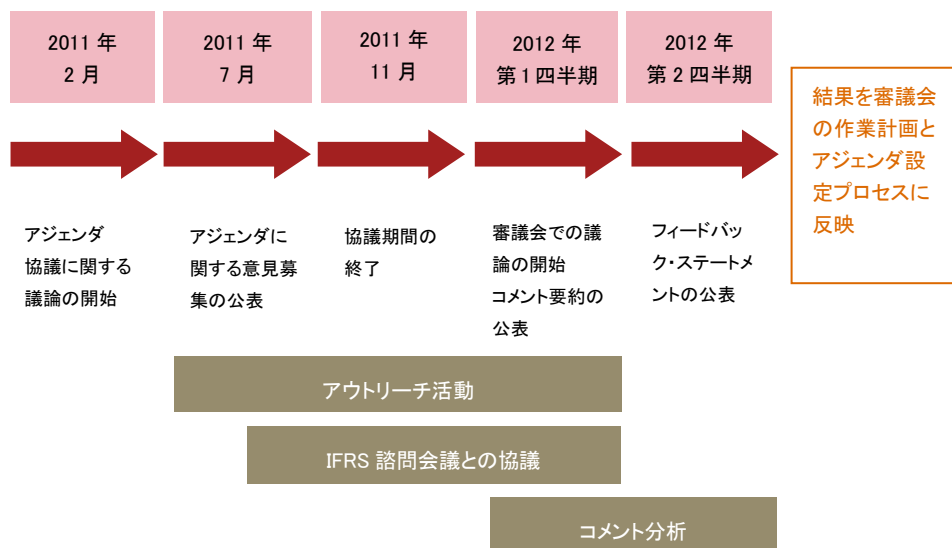
March 2012

2012年1月、国際会計基準審議会(IASB)は、「アジェンダ協議」に関するコメントレターで受け取ったフィードバックについて、さらなる研究を実施するようスタッフに求めました。そして、2012年3月、IASBは「アジェンダ協議」の開発計画について議論する予定です。IASBは、このうちいくつかの論点の明確化を求め、また、プロジェクトの優先順位を評価するための追加的な方法を提案しています。2012年2月には、国際財務報告基準(IFRS)諮問会議においてもフィードバックの要約が議論されました。

昨年、IASBは、作業計画の戦略的方向性および全体的なバランスに関するインプットを要求し、245通のコメントレターを受け取りました。「アジェンダ協議」の目的は、審議会において取り上げられる可能性のあるアジェンダ項目に関するフィードバックを受けることです。特に、IASBは、既存のIFRSの維持と新しい財務報告ガイダンスをどのようにバランスさせるか、および、時間と資源の制約を考慮した上で、改善のためにどの財務報告の領域を優先させるかについて利害関係者の意見を求めました。

コメント提出者からの主要なメッセージは以下のとおりです。

- 収益、金融商品、リースのプロジェクトを優先的に完了させる
- 「静止期間」が必要である
- 基準開発から維持管理に重点を移すべきである
- 将来のアジェンダでは、少し大がかりなものを控えるべきである
- 審議会は、国内基準設定主体を含むより広範な資源を利用すべきである
- 開示フレームワークを含む、概念フレームワークが必要である



あらた監査法人
東京都中央区銀座 8丁目 21番 1号
住友不動産汐留浜離宮ビル(〒104-0061)
お問い合わせ: aratapr@jp.pwc.com

This publication has been prepared for general guidance on matters of interest only, and does not constitute professional advice. It does not take into account any objectives, financial situation or needs of any recipient; any recipient should not act upon the information contained in this publication without obtaining independent professional advice. No representation or warranty (express or implied) is given as to the accuracy or completeness of the information contained in this publication, and, to the extent permitted by law, PricewaterhouseCoopers LLP, its members, employees and agents do not accept or assume any liability, responsibility or duty of care for any consequences of you or anyone else acting, or refraining to act, in reliance on the information contained in this publication or for any decision based on it.

© 2012 PwC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC Network and/or one or more of its member firms, each of which is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details. This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.